

## 2026年度 町田市立小山小学校 学校経営方針

町田市立小山小学校  
校長 三瓶 昌信

### I 学校経営の基本理念

#### 「活気ある学校」～目指す学校像 目指す教師像

1873年（明治6年）開校した本校は、今年度で153年を迎える。町田市で最も歴史ある学校の一つである。この間、多くの諸先輩の教職員の努力と地域の方々の協力によって、よき伝統と校風が築かれてきた。そして本校は、地域に根ざした教育を展開し、11,000名を超える卒業生を送り出してきた。地域が学校に寄せる期待は極めて大きいと受け止めている。

この期待に応えるために、本校の伝統を大切にしながら、新しい時代の教育的要請にも対応し、「活気ある学校づくり」を目指して、「Team小山」全教職員の力を合わせ、進んでいきたい。

「活気ある学校」は、子供にとっても、教職員にとっても、保護者や地域の方々にとっても共通した願いである。子供が生き生きとした学校生活を送る、教職員が情熱をもって指導に当たり、子供の個性を伸ばし、よさを発揮させる、そして保護者や地域の方々の期待に応え、信頼を得る学校づくりができるものと確信する。そのために、子供一人一人を大切に、人間尊重の精神を基調とした学校経営を行う。

#### 1 子供にとって「活気ある学校」

子供は「勉強が分かりたい」「友達と楽しく過ごしたい」「先生に認めてもらいたい」「みんなの役に立ちたい」など、様々な願いをもって毎日登校する。この願いが教職員の愛と指導によって成就されたとき、子供は活気ある学校生活を送ることができる。そのために、常に子供の立場に立ち、子供に寄り添い、共に考え、悩み、喜びを分かち合える教職員でありたい。

子供の成長は早く、今日の子供は、昨日の子供ではない。一人一人に違いがあり、無限の可能性を秘めている。そして心の奥底に美しく伸びようとする芽を持っている。その芽を大事に育てることは教職員の責務である。そのことを心に刻み、子供の可能性を信じて教育を続けたい。

子供が生き生きとした楽しい「活気ある学校」生活を送るために、全教職員の協力・協働の心を大切にする。

#### 2 教職員にとって「活気ある学校」

子供たちが活気ある学校生活を送るためには、まず、私たち教職員が活気ある学校づくりに主体的に取り組むことが大切である。活気ある学校では、職場に笑いがあり、笑顔に満ちている。自由に発言ができ、ユーモアがある。建設的で節度がある議論が行われる。しかし、他の一面では、厳しい自己反省があり、相互の磨き合い高め合いがある。これらは、働き甲斐がある職場の重要な要素である。その基盤となるのは、人間的な温かさや思いやりの心である。

「Team小山」は職務・職責の違いがあっても、一人一人が子供の幸せを築く価値ある仕事を担っている。互いの役割を理解し、仕事がしやすいように協力し合って、生きがいをもって働ける職場づくりを進める。

しかし、私たちは互いに生身の人間である。健康上の問題、家庭での様々な問題、あるいは仕事上の問題等を抱えることもある。そのようなとき、思いやりやいたわりの心で支え合い、助け合い、励まし合っていきたい（支え愛、助け愛、励まし愛）。そこに、教職員の輪が生まれ、信頼が育つ。このような教職員の姿は、子供の対する大きな教育力となり、生き生きとした楽しい「活気ある学

校」づくりの源になると考える。

### 3 保護者・地域にとって「活気ある学校」

保護者は、我が子の健やかな成長を強く願っており、教育に関する様々な願いや悩みが学校に寄せられる。この願いや悩みに対して、まず、素直に耳を傾ける。そして、その願いや悩みを共に解決する中で、望ましい教育の在り方についても理解を深めていく。

地域の方々は本校に深い愛着があり、学校との協力関係の中で、子供たちの健全育成を願い、学校への協力を惜しまない。

このような保護者や地域の学校に対する期待や願いを受け止め、共に歩む教職員の姿勢が信頼を深め、保護者・地域にとって「活気ある学校」となる。

## II 小山小学校の教育目標～目指す児童像（教育課程 第1表 より）

日本国憲法及び教育基本法の基本理念に基づき、東京都教育ビジョン、町田市教育プラン 24-28 を踏まえ、児童が知性・感性・道徳心・体力を調和的に育み、人間性豊かに成長することを目指し、次の教育目標を掲げる。

- ・考える子（自らすすんで学び、課題に対して主体的に取り組む子ども 課題解決力）
- ・挑戦する子（心身ともに鍛え、仲間と力を合わせ、意欲的に行動する子ども 実践力）
- ・感謝する子（自分を大切にし、仲間を大切にし、互いを認め高め合う子ども 人間関係形成力）

## III 基本方針（学校経営計画・学校評価）～町田市教育プラン 24-28 より

### 【社会に開かれた教育課程の実現】

○目指す学校及び子供の姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実現する。

- 1 家庭・地域との連携を強化し、「地域協働学校」を確立する。
  - (1) VC と連携し、ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用し、「小山学習」を展開する。
  - (2) コミュニティースクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。
- 2 積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への関心を高め、理解を求める。
  - (1) ホームページ、クラスルーム等を活用し、わかりやすい情報発信を行う。
  - (2) 365 日学校公開日とし、積極的に教育活動を公開し、透明性を高める。

### 【確かな学力の育成】

○授業改革を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成と共に、主題的・対話的で深い学びを実現する。

- 1 授業をデザインする 8 つの取組を踏まえ、子供が「わかる、できる、つくる、楽しい授業」を展開する。
  - (1) 「見通しをもたせる導入」「ICT 機器の活用」「価値ある対話の共有」「振り返り」の設定の 4 つに特化して取り組み、授業改善を図る。
  - (2) ICT 機器（プロジェクター、タブレット、デジタル教科書）を積極的に活用した授業を実施し、日常的に活用できる力を育てる。
- 2 学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子供を育てる。
  - (1) 既習事項を活用した問題解決型・探究型の学習を展開する。
  - (2) 学習は学校だけでなく、家庭の協力が欠かせない。家庭学習の充実を図る。

### 【豊かな心の涵養】

○多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。

1 生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。

(1) 人権を相互に尊重する態度を育て、いじめを絶対に見逃さない指導体制を徹底する。

(2) 「特別の教科 道徳」の授業では、道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳的実践力を育てる。

2 児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切のできる態度を養う。

(1) 子供の主体的な活動を重視し、委員会、クラブ、異学年交流、実行委員会、係活動などの充実を図る。

(2) 読書活動を推進し、学校図書館貸出冊数 35000 冊を目指す。電子図書館も積極的に活用する。

### 【健やかに過ごせる体の育成】

○正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。

1 運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。

(1) 体育科の授業の充実を図ると共に、外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。

(2) 家庭と連携し、健康教育・食育を推進する。(早寝、早起き、朝ご飯)

2 安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための学校体制を徹底する。

(1) 遊びのルール、廊下・階段の歩行など「生活のやくそく」を守って生活する。

(2) 教職員の共通理解を図ると共に、専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め、指導の充実を図る。

### 【未来を見据えた特色ある学びの推進】

○将来ある子供の育成という意識をもち、町田市公立小学校として市が掲げる施策に沿って特色ある教育の推進に努める。

1 ICTを活用した学びの充実

(1) 日常的なICT活用を推進する。タブレットは鉛筆、ノートと同様の学習ツールであり、子供たちが当たり前のように活用できるようにする。

(2) ドリルソフト「Qubena」を家庭学習にも毎日活用する。

2 キャリア教育の推進

(1) 企業の出前授業、保護者や地域の方々の協力を得て、全学年でキャリア教育を充実させ、将来の夢や目標に対する興味、関心を高める。

3 えいごのまちだの推進

(1) イングリッシュフェスタを実施する等、英語に親しむ活動を充実させる。